調査団体名	乗政DVC	団体代表者名	坂下紀夫
設立年	1990年	団体URL	なし
活動地域	下呂市乗政	調査員	杉野、小野
取材日	2009/12/14	レポート作成者	小野佳英子

枝垂れ栗はわしらで守る

＜活動内容＞

1)国指定特別天然記念物「枝垂れ栗」自生地の環境保全：枝の剪定、下草刈り、クリタマバチ防除の消毒作業、接ぎ木、苗木の育成等
2)周辺湿地を含めたビオトープづくり（ハッチョウトンボ生息地）
3)農道の圃場整備に伴う残土処分場における、サクラなどの広葉樹の植樹
4)登山道（白草山/1,600m）の草刈り：年に1～2回
5)基本は無償ボランティアで活動を展開している。

＜会のモットー(何を大切にしているか)＞

○会の目的は、「会員相互の親睦を図るとともに乗政地区の各種行事に対する協力と郷土発展のための研究及びこれに必要な奉仕活動を行うこと」である。
○枝垂れ栗の手入れを継続して行い、ゆくゆくは広葉樹を植えて一帯を公園として整備したいと考えている。
○DVCとは「D：発展」「V：自発的に奉仕」「C：団体」。

＜設立から現在に至るまでに変化したこと＞

○今年で20年が経過するが、会員のモチベーションが下がってきたと感じる。
○ピーク時は60人いた会員が、現在では40数人まで減少した。

＜連携している団体・専門家・自治体など＞

○森のなりわい研究所（調査3-11）の伊藤氏と協働することもあるが、全般に単独での活動が多い。枝垂れ栗の手入れについては岐阜県と、登山道については下呂市と連携している。
○かつて、地元小中学校と連携して、枝垂れ栗の手入れ（クリタマバチ防除等）をしたこともあるが、あまり効果を感じられなかったため現在は行っていない。

＜今までに行った調査・研究＞

○枝垂れ栗の生態に関する調査、研究。
○手入れをするためには、「木と話をする」ことが重要だと考える。

＜現在直面している課題＞

○今のところ、特に課題はないが、会員は全て乗政の住民である。名古屋などの都市から人を呼ぶのは難しいと感じる。
○会の収入は会費と市と県の補助金で、補助金はもらっているがあまりあてにはしていないため、ガソリン代や苗代は会員が負担している。また、収穫した栗は山栗のため、販売して収益を得ることはできない。しかし、活動は会員の心意気に支えられて行うものであり、お金がないことが課題だとは感じていない。

＜今後やってみたいこと＞

現状の活動で精いっぱいだと感じている。ただ、枝垂れ栗に影を落とす周辺の里山林は伐りたいと思っている。

＜そのためにはどんな情報・人脈が必要か＞

乗政は、昔から外部よりあまり人が入らない地域である。山の大部分は地元の人が所有している。地元の人と問題を共有することが大切である。

＜チームオリジナルの質問＞

質問内容：	流域の視点から見て、会の活動をどのように捉えているか。
答え：	里山林からきれいな水を供給したいという意識を持っている。そのためには、もっともっと里山林の間伐をしなければならない。また里山林では、かつては炭焼きやシイタケ栽培が行われていたが、今は人工林に変わってしまったところも多い。生産森林組合が山の境界に杭を打っているので、所有状況は明らかになっている。

＜その他、伝えたいこと＞

○伊勢湾をきれいにするためには、山をきれいにすることが必要である。そのためには、県単位ではなく流域でものを考えていく必要がある。上流域として豊かな水量のきれいな水を供給したい。
○山と水のつながりについてあまり理解されていないと感じる。「山と水のつながり」を、特に小学生をはじめとする子どもたちにもっときちんと伝えていく必要がある。

国指定特別天然記念物「枝垂れ栗」自生地

十周年記念植樹

ビオトープづくり

対面調査の様子

残土処分場におけるサクラなどの広葉樹の植樹（鹿被害対策の網）